

千年の森便り No.240

2023.11.30

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

11月19日(日) 天候 晴れ

10月の活動日は公開行事として秋のきのこ観察会を計画していましたが、風雨が強く中止としたため、今回は2か月ぶりの活動となりました。9月の真夏の暑さの中での活動から一転して、爽やかな青空の下、紅葉が始まり秋の気配に包まれた豊英島の森の中での活動を楽しみました。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、坂本、竹下、成沢、福島、真鍋の会員10名、ナラ枯れで枯死したコナラの伐採、ホテイ岬の竹林整備、植物観察などを行いました。



次回は12月3日(日)、今年最後の定例活動日になります。ニホンジカの生息状況調査、紅葉散策、メンバーによっては危険木の伐採を予定しています。豊英島の美しい紅葉を楽しみに、奮ってご参加ください。(福島)

○ホテイ岬の森林整備

ホテイ岬は、雑木林、マダケ林、ホテイチク林が混在していますが、ナラ枯れ対策でこちらまで整備の手が回らず荒れた様子を見せていました。今回は、坂本さんと伊藤で地表に散乱する枯木や枯れ竹を数か所に集めて積み上げてすっきりさせました。

特にマダケについては、立ち枯れしたものを伐採するだけでなく、一定の長さに切断して木口を揃えて積み上げました。これまでの枝をつけたまま乱雑に積み上げたものも、再度枝払い、切断をして整備を進めると見違えるようになりました。特に湖岸近くに散乱するものは、大雨などで流木になってダムに悪影響を与える可能性があるため、重点的に処理しました。きれいになった湖岸からは対岸の紅葉が水面に映えて、作業の疲れを癒してくれました。

実際の作業では、坂本さん作成のアラカシ、ヤマボウシで作った竹の枝払い棒が効果抜群で、簡単に竹の枝が払えました。長さ、太さ、重さのバランスが大事なんですね。(伊藤)

木の棒で竹の枝を打ち落とす方法は、佐倉での竹林整備の際に教えてもらったものです。利点は鉋などの刃物を振り回すのと違い、万一手元が狂っても怪我の恐れが無い事です。作業効率が良い上に、木の棒ですから現地で無料調達可能なのも利点です。皆さんも竹林整備にお試し下さい。(坂本)



枯木や枯れ竹を数か所に集めて積み上げ



対岸の紅葉が水面に映える

○ナラ枯れ枯死木の伐採

今回は、ナラ枯れによる枯死木を 13 本伐採しました。

毎度のことですが、ハンマーで幹を叩きながら腐朽の進行具合を確認し、安全性を確認しながら作業しました。2か月ぶりの伐採作業で、バーの先端が下がるクセがまた出てしまいました（スロットルを持つ右手に力が入っているため、バーが下がる）。一緒に作業した方に指摘され、クセを直そうとしましたが意識すればするほど右手に力が入ってしまったようです。

途中、チェーンソーの削りカスが粉状になってきたので、他の方のチェーンソーをお借りしました。すると今まで感じたことのない切り心地が！ほとんど振動もなく、ソーチェーンの回転もスルスル～。やっぱり新しいソーチェーンは違うなあ～と思っていたら、何か違和感が！？

一向に削りカスが出てこないのです。そうです。刃の向きが逆向きに取り付けられていたのでした（笑）。貸してくれた方曰く、「朝バタバタしていたため、気が付かなかった！！」とのこと。普段、そんなミスする方ではないので、余計に面白かったです。今回は笑い話で済みましたが、チェーンソーを使用した作業は危険を伴いますので、少しでも「変だな！？」と思ったら、一度エンジンを止めて冷静に確認することが重要です。（成沢）



ナラ枯れで枯死したコナラの伐採



ロープウインチを使って伐倒

○枯損木の伐倒時におけるポイント

直立している針葉樹の伐倒を基本編とすると、重心が偏った木が多い広葉樹は応用編、作業中に折れた枯れ枝が降ってくるかも知れない枯損木は非常に厄介な超応用編とも言えます。

今回は前日の強風によって危険な枯れ枝の大部分が片付いた後だったこともあり、作業を進める上では非常に恵まれていましたが、それでも安全には非常に気を使いました。二つとして同じ木はなく、常にケースバイケースな部分が多々ありますが、今後のために、ナラ枯れ被害等による枯損木の伐倒時におけるポイントを以下のとおりまとめました。

- ①無理をしない。
- ②見張りを立て、異常があったら知らせてもらう。（電動チェーンソーは音が小さく意思疎通に便利）
- ③木の状態をよく確認する。（頭上のほか、鋸断箇所も入念に！）
- ④ロープを木の丈夫な箇所にセットする。（枯れ木は生木よりも折れやすいので注意！）
- ⑤「つる」（切り残し）を通常より大きめに残す。
- ⑥クサビの打ち込みは最小限とし、木に強い衝撃を与えない。（チェーンソーが挟まれない程度で十分）
- ⑦十分に退避した後にロープで引いて倒す。
- ⑧倒した後も頭上に警戒し、すぐには近づかない。（時間差で「お釣りが降ってきます）

今回の作業ではロープウインチの大活躍によりかなり捗ったと思いますが、島内にはまだ多数の枯損木があります。引き続き安全第一で取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。ご安全に！（竹下）



電動チェーンソーで慎重に追い口を入れる

〇11月の植物と昆虫

コナラ伐採地の低木草区域は腰高以下の植物が隙間なく生えて、草原化の目的は一応達成されているように思います。シラヤマギク、シロヨメナ、リュウノウギク、コウヤボウキ、リンドウが咲き、中高木区域のヒイラギは、まだ花数が少なく甘い香りが感じられるほどではありませんが今年も咲きました。

実をつけていたのは、ノイバラ、ムラサキシキブ、コバノガマズミ、アズキナシ（保護柵の外側）です。例年たくさんのサルトリイバラの赤い実がありましたが、今回は残念ながら確認できませんでした。オケラは褐色のそう果となっていて苞の隙間からは、沢山の白い冠毛が見えていました。いずれ風に運ばれてどこかに行ってしまう。

ここには、いろいろな虫が蜜等を求めてやってきています。ツチバチの仲間がリンドウの花に、キタキチョウはコウヤボウキの花に留まっていた。また、ホテイ岬に行く途中、シロダモの葉にエサキモンキツノカメムシが止まっていた。このカメムシの雌は卵の世話をするそうです。産んだ卵の上に覆いかぶさり卵を守るほかに、暑い日には翅をはたかせ温度から守ったりする習性があるようです。一度は見てみたいものです。けもの道にネット状の巣をかけていたのはジョロウグモです。木漏れ日に蜘蛛の糸が白く輝きしばらく見入ってしまいました。ジョロウグモのお腹は成熟した時のしるしとして、下のほうが赤くなるようです。しっかり赤くなっていました。

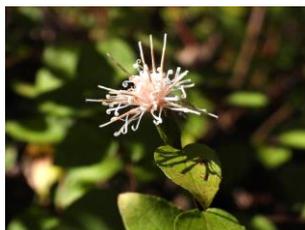
紅葉はいい頃合いのように思いました。オオモミジ、ウリカエデ、コマユミ、ヤマコウバシ、ネジキ、クロモジ等々、黄色から赤色までグラデーションありでいい感じです。特に好きなのはアズキナシです。青空を背景に葉のない広がりのある枝に真っ赤な実をつけたアズキナシの木は爽快な気持ちにさせてくれます。（秋元）



ツチバチの仲間



シラヤマギク



コウヤボウキ



キタキチョウ



ノイバラの実



リンドウ



シロヨメナ



オケラのそう果



アズキナシの実



アズキナシ



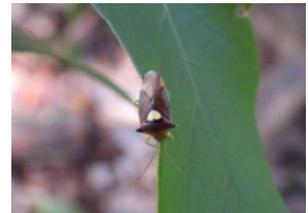
ヒイラギ



リュウノウギク



ジョロウグモ



エサキモンキツノカメムシ



コバノガマズミの実



オオモミジ

○センサーカメラの動物たち 【設置期間：9月18日から11月19日まで】

前回活動日9月18日の千年の森便り No.239の記事に、イノシシらしきラッセルの痕が所々でみられたとありました。センサーカメラには8月28日と9月14日にイノシシの記録があります。このラッセル痕はイノシシで間違いのないようです。

最近、ニホンジカの記録が非常に少なくなっています。キョンが記録されるようになってから徐々に少なくなってきたように感じます。キョンがニホンジカにとって代わってきたのでしょうか。キョンの記録は多くなっています。親子とみられる姿も記録されました。子供がダム湖を泳いで渡ってくることは難しいと思われ、もしかすると島で生まれた子供かもしれません。また、9月18日の活動日の10時40分ころ、島からつり橋方向に向かう1頭のキョンが記録され、そのキョンはすぐにつり橋方向から島に戻ってきたような映像となっていました。つり橋の入り口の扉が閉じていたためすぐに引き返してきたように思います。

キョンの主な特徴は、①オスには牙がある、②繁殖期は1年中、③生後半年で妊娠・出産が可能、④群れないで単独行動する、⑤小さくいて素早い、⑥雑食性が強い、とのことでニホンジカの生態とは大きく違ってきます。

そのほかに、記録数は少ないですが、ニホンザル、アライグマ、ハクビシンが記録されました。

集計表を誤って消失したため今回は総数の記載はありません。なお、ホテイ岬先端付近に設置したカメラには記録はありませんでした。(秋元)



ニホンザルの親子



キョン



イノシシ



アライグマ



キョンの親子



ハクビシン

○久しぶりの千年の森

久しぶりに千年の森の活動に参加しました。小春日和の千年の森は温かい空気がさわやかで、森の天井には雲一つない青空が輝いていました。体力がなく働けない私は、働く皆さんの活気あふれる声を遠くに聞きながら、一人森を散策しました。森での発見はほてい岬の保護ネットの中に残る、季節遅れのコウタケただ一つだけでした。

この日の活動の中心はナラ枯れ樹木の伐採作業で、森には働く皆さんの活気がみなぎっていました。響くチェーンソーの快音、合図の鋭い笛の音と掛け声、伐採木の轟音が鳴り響いていました。皆さんの働きぶりを見て、千年の森は深刻なナラ枯れの被害からいずれ回復するに違いない、そして今年で20年になった千年の森の活動は今後ますます充実していくに違いないと確信しました。参加の皆さんお疲れ様でした。(真鍋)



季節遅れの特大コウタケ

お知らせ

○次回の定例活動は 12月3日（日）です。

今年最後の活動日となります。活動内容としては、ニホンジカの生息状況調査、紅葉散策、メンバーによっては危険木の伐採を予定しています。なお、計画にあるツリークライミング体験は延期します。紅葉が楽しめる時期ですので是非ともご参加ください。体験参加も歓迎です。ダニ対策、ヘルメット着用を忘れずに。（福島）